

専門分野

○成人看護学、老年看護学(領域横断)

- ・看護対象論概論
- ・ヘルスプロモーション
- ・薬物療法と看護
- ・クリティカルケア
- ・周術期看護
- ・リハビリテーション看護
- ・慢性期看護Ⅰ
- ・慢性期看護Ⅱ
- ・終末期看護

○老年看護学

- ・老年看護学援助論

科目区分	専門分野	教育内容	成人看護学 老年看護学（*領域横断科目）
授業科目	看護対象論概論	単位数(時間)	1単位(30時間) *成人0.7 老年0.3
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	☑ ・ 無
<p>目的: 看護における対象理解の基盤を形成するために、人間を生涯発達する存在として捉え、成人期から老年期に至るまでのライフステージ各期の発達的特徴と対象に合わせた看護を実践できるための基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 看護の対象である人間の発達段階の特徴を理解できる。 2 成人期・老年期における身体的・心理的・社会的課題を理解できる。 3 成人期・老年期の健康問題を理解し、看護の対象の特徴に合わせた看護を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 看護の対象理解 1)人間と発達 2)対象に対する看護 (1)個人・家族・地域社会を対象とする看護	準備:「発達」という言葉からイメージする日常生活でみられる発達の例を考える。 復習:リアクションペーパー記入する。 エリクソンの発達段階を簡単にまとめる。	
2	2 発達段階ごとの個人の理解 1)ライフサイクルとは 2)発達と発達に影響する因子 3)発達課題とライフイベント	準備:テキスト「各発達段階の特徴、発達課題」を読む。 復習:授業の復習をする。	
3	4)発達理論(エリクソン・ハヴィガースト) 5)看護学における発達段階の位置づけ 6)データでみる年齢階級別の特徴		
4	3 成人期の発達段階からみた対象理解 1)人間のライフサイクルにおける成人期 2)青年期の特徴とニーズ (1)身体的・精神的・社会的特徴(発達課題含)	準備:医学書院 成人看護学総論「大人になること、大人であること」を読んでおく。 復習:課題レポートを提出する。	
5	(2)主な健康問題と健康上のニーズ (3)発達に必要な支援		
6	3)壮年期・中年期の特徴とニーズ (1)身体的・精神的・社会的特徴(発達課題含) (2)主な健康問題と健康上のニーズ (3)発達に必要な支援	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
7	4)向老期の特徴とニーズ (1)身体的・精神的・社会的特徴(発達課題含) (2)主な健康問題と健康上のニーズ (3)発達に必要な支援	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
8	5)成人期にある人の生活 (1)家庭生活 (2)職業生活 (3)生活習慣 (4)健康問題	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
9	(5)生活習慣に関連する健康問題 (6)職業に関連する健康問題 (7)ストレスに関連する健康問題		
10	4 老年期の発達段階からみた対象理解 1)人間のライフサイクルにおける老年期 2)加齢による身体的変化とそれによる生活への影響	準備:「形態機能学」を復習する 復習:授業の復習をする。	

	循環器、呼吸器、消化器、咀嚼嚥下、脳神経系 認知機能、腎泌尿器、内分泌、成長代謝、性腺ホルモン、 感覚器、運動器、皮膚	
11	3)老年期の精神的・社会的特徴(発達課題含) 4)老年期のスピリチュアルな特徴と人生の最期に対 する意識	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。
12	5)健康状態毎の老年期の理解 健康維持増進期、急性期、回復期、慢性期、終末期 6)薬物療法を受ける高齢者の特徴 7)手術療法を受ける高齢者の特徴	
13	8)健康上のニーズ 9)高齢者の生活とコミュニケーションの特徴 10)高齢者の権利擁護 (1)権利擁護とは (2)偏見と差別(エイジズム) (3)高齢者虐待 【GW】 (4)身体拘束 (5)権利擁護に関わる制度	準備:テキストを読む。 復習:授業内容の復習をする。
14	11)高齢者に起こりやすい健康問題と疾患	
15	まとめ(1) 試験(1)	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	レポート 筆記試験 グループ発表資料と発表内容	
テキスト	成人看護学総論 医学書院 老年看護学 医学書院 看護がみえる⑤ 対象の理解I メディックメディア	
参考文献	三輪書店 生涯人間発達学 改訂第2版増補版	
履修上の 留意事項	形態機能学による、「発達」が基礎知識として必要になるため、復習して臨むこと。 レポートの提出にあたっては、テキストを繰り返し読み、わかりにくいところは上に挙げた テキストや参考書以外、図書館等で調べるなどの自主学習を行う。	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	成人看護学 老年看護学
授業科目	【領域横断科目】 ヘルスプロモーション	単位数(時間)	1単位(20時間) *成人0.7 老年0.3
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: ヘルスプロモーション活動の基本的な考え方と、看護職者の役割を理解する。</p> <p>目標: 1 ヘルスプロモーションの概念と戦略について理解する。 2 ヘルスプロモーションの理論とその活用方法について理解する。 3 WHO および日本の健康政策を理解する。 4 各ライフステージにおけるヘルスプロモーションの取り組みと看護職の役割を理解する。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 ヘルスプロモーションの考え方 1) ヘルスプロモーションの概念 2) ヘルスプロモーションの戦略 3) ヘルスプロモーションの活動方法	準備:「健康」について自身の考えをまとめておく。テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
2	2 ヘルスプロモーションの考え方 1) ヘルスプロモーションと健康政策 2) ヘルスプロモーションの場	準備:自分が住んでいる市町村で行われている健康政策を調べてくる。発表出来るよう準備する。 復習:授業の復習をする。	
3	3 ヘルスプロモーションとWHO・日本の健康政策 1) 健康増進・生活習慣病対策 2) 地域保健法 3) 健康日本21	準備:WHOと日本の健康政策の変遷を年表にまとめる。 復習:授業の復習をする。	
4	4 ヘルスプロモーションの理論とその活用 1) 健康教育に必要な考え方、理論	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
5	2) 健康行動に必要な理論		
6	5 成人のヘルスプロモーション 1)成人の健康状況及び健康問題 2)ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
7	3) ワークライフバランス 4) 労働者の健康問題 5) 労働衛生対策	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
8	6) 職業に関する健康障害と予防及び対策の実際 (産業保健)	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
9 (3h)	6 高齢者のヘルスプロモーション 1) 高齢者の健康状況及び健康問題 2) 健康寿命の延伸 3) フレイル、ロコモティブ・シンドローム、 ストレンクスモデルとヘルスプロモーション	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験 課題レポート ワークシート		

テキスト	メジカルフレンド社 別巻 ヘルスプロモーション
参考文献	メディック・メディア 公衆衛生がみえる
履修上の 留意事項	看護学概論、看護対象論概論、看護の基本となる技術Ⅲと関連がある科目である。 予習復習を主体的に行い講義に臨む。
備考	*最新のデータを踏まえ、今の日本の健康問題について学ぶ。

科目区分	専門分野	教育内容	成人看護学 老年看護学
授業科目	【領域横断科目】 薬物療法と看護	単位数(時間)	1単位(30時間) *成人0.6、老年0.4
開講年次	3年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	☑ ・ 無
<p>目的: 安全な薬物療法を行うために必要な薬理作用、有害事象、与薬時の注意点と看護援助を理解する。</p> <p>目標: 1 薬物の投与方法の違いによる特徴と看護援助を理解できる。 2 成人期、老年期を通じた疾患に対する薬物療法の注意点と看護援助を理解できる。 3 薬物の特徴、食事による影響、検査値の変動、身体への症状を全人的な視点で理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 薬物療法と看護の基礎知識	<p>準備:薬理学の教科書を学習する。 2年次に学習した薬理学の内容は、理解しておく。 復習:ハイリスク患者への薬物投与における看護をレポート800字以上で作成提出する。</p>	
2	1)薬物の体内動態と相互作用の理解		
3	2)薬物の剤型とその特徴に応じた教育指導の理解		
4	3)薬物の体内動態とハイリスク患者の看護 2 対象に応じた自己管理 1)成人期から老年期の特徴に合わせた自己管理		
5	3 服薬支援と与薬 1)社会復帰に向けた自己管理	<p>準備:提示された事前課題に取り組む。 復習:授業内容を復習する。</p>	
6	2)在宅での服薬管理		
7	4 薬物療法における看護師の役割理解 1)成人期の対象 (就業継続時の支援) 2)老年期の対象(認知症高齢者及び家族への支援)		
8	5 事例に応じた薬物療法の基礎知識にもとづいた薬物管理【ロールプレイ】 疾患名:Ⅱ型糖尿病(退院～在宅移行期) *成人療養者を取り巻く環境を含めた事例を展開し、看護の関わり方をシミュレーションする。 療養環境整備:仕事、住居、サービス、家族支援を含む	<p>準備:Ⅱ型糖尿病の基本的な疾患の知識(・薬物療法・検査値・食事指導・運動療法)について、ワークシートに事前学習をする。 簡易血糖測定の方法を事前学習する。 復習:ワークシートにシミュレーション演習を通して学べたことを記入し提出する。</p>	
9			
10	6 事例に応じた薬物療法の基礎知識にもとづいた薬物管理について【ロールプレイ】 疾患名:関節リウマチの薬物療法(治療開始時) *成人療養者を取り巻く環境を含めた事例を展開し、看護の関わり方をシミュレーションする。 療養環境整備:仕事、住居、サービス、家族支援を含む	<p>準備:関節リウマチ治療の基本的な疾患の知識(症状に対する看護の提案、薬物療法、検査値の理解)についてワークシートで事前学習をする。 復習:ワークシートにシミュレーション演習を通して学べたことを記入し提出する。</p>	
11			
12	7 事例に応じた薬物療法の基礎知識にもとづいた薬物管理について【ロールプレイ】 疾患名:心不全(退院～在宅移行期) *高齢療養者を取り巻く環境を含めた事例を展開し、看護の関わり方をシミュレーションする。 療養環境整備:住居、サービス、家族支援を含む	<p>準備:高齢者の心不全の基本的な疾患の知識(症状に対する看護の提案、薬物療法、検査値の理解、食事指導)についてワークシートで事前学習をする。 復習:ワークシートにシミュレーション演習を通して学べたことを記入し提出する。</p>	
13			
14	8 薬物治療における安全管理・ Medikation エラーについて		

15	試験 (1) 振り返り(1)	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験 ワークシート提出状況 シミュレーション参加度	
テキスト	医学書院 別刊 がん看護学、 医学書院 成人看護学 内分泌・代謝 医学書院 成人看護学 循環器 医学書院 薬理学	
参考文献	必要がある場合には、講師が適宜準備し、配布する。	
履修上の留意事項	薬理学の復習をする。	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	成人看護学 老年看護学
授業科目	【領域横断科目】 クリティカルケア	単位数(時間)	1単位(30時間) *成人0.7 老年0.3
開講年次	3年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 生命の危機状況にある人とその家族の看護を学び、実践するための基礎的知識・技術を習得する。</p> <p>目標: 1 急性期の特徴と看護の役割について説明できる。 2 クリティカルな状態にある人とその家族の特徴を説明できる。 3 クリティカルケア看護の場と必要な看護援助を説明できる。 4 クリティカルケア看護における倫理的課題について説明できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 クリティカルケア看護の概要 1)クリティカルケア看護の場 2)クリティカルケア場面における倫理的配慮 3)クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴	準備:該当項目の内容についてテキストを読む。	
2	2 クリティカルな患者の身体的状態と看護 1) 病態の理解 (播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器機能障害(MODS)含む)	復習:授業の復習をする。	
3	2) 呼吸・循環のアセスメント 3) 人工呼吸器による呼吸管理		
4	3 急性・クリティカルの特徴 1) 家族の特徴と家族ケア 2) 多職種連携	準備:該当項目の内容についてテキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
5	4 クリティカルケア看護の基盤となる理論 1)危機理論	準備:3つの理論についてポイントを整理し授業に臨む。	
6	2)コントロール理論 3)コンフォート理論	復習:授業の復習をする。	
7	5 クリティカルな状態にある患者の看護(急性腹症) フィジカルアセスメント(演習)	準備:腹痛・嘔吐時の看護について事前学習をする。 急性腹症の病態生理・看護について事前学習をする。	
8		ショック時の看護について事前学習をする。 復習:授業の復習をする。	
9	6 クリティカルな状態にある患者の看護(心筋梗塞) フィジカルアセスメント(演習)	準備:胸痛時の看護について学習をする。 心筋梗塞の病態生理・看護について学習	
10		復習:授業の復習をする。	
11	7 クリティカルな状態にある患者の看護(くも膜下出血) フィジカルアセスメント(演習)	準備:頭痛時の看護について学習をする。 くも膜下出血の病態生理・看護について	
12		学習をする。 復習:授業の復習をする。	
13	8 クリティカルな状態にある患者の看護(呼吸不全) フィジカルアセスメント(演習)	準備:呼吸困難時の看護について学習をする。	
14		呼吸不全の病態生理・看護について学習をする。 人工呼吸器による呼吸管理について復習をする。	

		復習:授業の復習をする。
	試験(1) まとめ(1)	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験 演習参加状況	
テキスト	医学書院 クリティカルケア看護学	
参考文献	メヂカルフレンド社 急性期看護:クリティカルケア	
履修上の留意事項	授業では主に事例を展開していくため、疾患について、形態機能学・病態生理等の復讐をして授業に臨むこと。	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	成人看護学 老年看護学
授業科目	【領域横断科目】 周術期看護	単位数(時間)	1単位(30時間) *成人0.6:老年0.4
開講年次	2年次	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的: 周術期にある人とその家族の看護を学び、実践するための基礎的知識・技術を養う。</p> <p>目標: 1 周術期の特徴と看護の役割について説明できる。 2 周術期にある人の身体的特徴、検査、治療を説明できる。 3 周術期にある人と家族の心理・社会的特徴を説明できる。 4 手術を受ける人の看護過程を展開できる。 5 設定された場で対象に必要な基本的技術が実施できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 周術期の特徴 1)手術療法による侵襲と生体への反応 2)安全管理 3)看護師の役割	<p>準備:治療論、疾病治療論を復習し、手術療法の特徴や成人期・老年期の健康障害について理解しておく。 テキストを読む。</p> <p>復習:授業内容を復習する。</p>	
2	2 周術期にある対象への看護 1)手術前の看護 2)手術中の看護(手術室看護・間接介助と直接介助)、 3)手術後の看護 4)術後合併症と予防 5)継続看護 3 高齢者に起こりやすい周術期の反応と合併症、身体機能・認知機能に応じた周術期看護		
3	4 検査を受ける患者の看護 1)検査の援助 2)加齢による検査結果への影響 3)身体機能・認知機能に応じた援助 5 手術を受ける患者家族の看護 1)成人期の家族 2)高齢者の家族支援		
4	6 周術期の看護援助(演習) 1)術前オリエンテーション	<p>準備:テキストや動画で必要な看護技術を学習する。 復習:授業内容を復習する</p>	
5	2)フィジカルアセスメント		
6	3)創傷管理・ドレーン管理 4)退院支援		
7	7 消化器系の手術を受ける患者の看護① アセスメント、計画立案	<p>準備:事例について、病態生理、治療、検査、一般的な看護について調べる。 復習:授業内容を復習する。</p>	
8	*胃がんで手術を受ける事例(成人期)		
9	8 消化器系の手術を受ける患者の看護② 状況に基づいたシミュレーション	<p>準備:事例検討をもとに必要な看護技術を復習する。 復習:授業内容を復習する。</p>	
10			
11	9 筋・骨格系の手術を受ける患者の看護① アセスメント、計画立案	<p>準備:事例について、病態生理、治療、検査、一般的な看護について調べる。 復習:授業内容を復習する。</p>	
12	*大腿骨頸部骨折で全置換術を受ける高齢者の看護		
13	10 筋・骨格系の手術を受ける患者の看護② 状況に基づいたシミュレーション	<p>準備:事例について、病態生理、治療、検査、一般的な看護について調べる。 復習:授業内容を復習する。</p>	
14			

15 (1h)	試験(1) まとめ(1)	
履修要件		
評価方法	筆記試験、課題レポート、参加状況等	
テキスト	医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 経過別成人看護学② 周術期看護	
参考文献		
履修上の 留意事項		
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	成人看護学 老年看護学
授業科目	【領域横断科目】 リハビリテーション看護	単位数(時間)	1単位(30時間) *成人 0.6 老年0.4
開講年次	2年次通年	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 健康障害によりリハビリテーションや生活の再構築が必要となる人とその家族を理解し、その人が持っている治癒能力を高め、回復を促進する看護の役割を理解する。</p> <p>目標: 1 リハビリテーション看護の考え方や看護を展開する基本的枠組みを理解できる。 2 リハビリテーション看護の果たすべき役割と機能を理解できる。 3 リハビリテーションを受ける人の看護過程を展開できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 リハビリテーション看護とは 1)リハビリテーションの定義 2)リハビリテーション看護とは 3)リハビリテーションの領域 4)リハビリテーション医療とチームアプローチ 2 生活機能分類(ICF)と生活機能障害の構造	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
2	3 リハビリテーション看護の機能と役割 1)急性期のリハビリテーション看護 2)回復期のリハビリテーション看護 3)生活期(維持期)のリハビリテーション看護 4)終末期のリハビリテーション看護	準備: テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
3	4 リハビリテーション領域における基本理論 1)コーン 2)フィンク 3)レジリエンス	準備:テキストを読む。	
4	4)ストレンクスモデル 5)ノーマライゼーション 6)コーピング 7)QOL	復習:授業の復習をする。	
5	5 リハビリテーションが必要な対象への看護 1)全身状態を整える看護 2)身体機能維持・回復を促す看護 3)障害を負った人の心を支える看護	準備: テキストを読む。	
6	4)ADL の再獲得を支援する看護 5)家族への支援 6)生活の再構築を支える社会資源 7)地域生活への移行支援	復習: 授業の復習をする。	
7	6 リハビリテーションが必要な成人の対象理解と看護 【事例】 脊髄損傷を負った若年者の看護	準備: 脊髄損傷について、病態・診断・治療・看護について学習する。	
8	・急性期、障害受容	事例をもとに、ワークシートに記入する。	
9	*アセスメント→看護診断→計画立案 援助場面のシミュレーション	復習:学習内容をワークシートに記入し提出する。	
10	7 リハビリテーションが必要な成人の対象理解と看護 【事例】心筋梗塞を発症した壮年期の看護	準備: 心筋梗塞について、病態・診断・治療・看護について学習する。	

11	*アセスメント→看護診断→計画立案 援助場面のシミュレーション	事例をもとに、ワークシートに記入する。 復習:学習内容をワークシートに記入し提出する。
12	8 リハビリテーションが必要な高齢者の対象理解と看護	準備:脳梗塞について、病態・診断・治療・看護について学習する。 事例をもとに、ワークシートに記入する 復習:学習内容をワークシートに記入し提出する。
13	【事例】脳梗塞の高齢者の看護 ・片麻痺 在宅復帰を目指す	
14	*アセスメント→看護診断→計画立案 援助場面のシミュレーション	
15	まとめ(1) 試験(1)	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験 レポート グループ発表資料と発表内容	
テキスト	ヌーベルヒロカワ リハビリテーション看護論	
参考文献		
履修上の留意事項		
備考	障害を持つ疾患の闘病記などを読み、その対象と家族の心理面を理解しておく。 看護師に必要な支援とは何か考える。	

科目区分	専門分野	教育内容	成人看護学 老年看護学
授業科目	【領域横断科目】 慢性期看護Ⅰ	単位数(時間)	1単位(30時間) *成人0.7:老年0.3
開講年次	2年次通年	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 長期にわたり生活の調整が必要となる人とその家族の看護を学び、実践するための基礎的知識・技術を習得する。</p> <p>目標: 1. 慢性期の特徴と看護の役割について説明できる。 2. 慢性期にある人の身体的特徴、検査、治療を説明できる。 3. 慢性期にある人と家族の心理・社会的特徴を説明できる。 4. 慢性的な健康障害をもつ対象の看護過程を展開できる。 5. 設定された場で対象に必要な基本的技術が実施できる。 6. 慢性期における倫理的課題について考えることができる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 慢性期の特徴 1)慢性性(クロニシティ)、生活習慣病、難病 2 慢性期にある対象への看護 1)慢性疾患とともに生きる患者と家族の特徴 2)疾患や障害とともに生きる高齢者の看護 3)治療選択・意思決定への支援 4)症状のマネジメント	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	3 慢性期にある対象を支援するための基礎理論 1)病みの軌跡 2)セルフケア理論 3)アドヒアランス	準備:テキストを読む。理論の概要を調べておく。	
3	4)健康信念モデル 5)自己効力感	復習:授業内容を復習する。	
4	4 慢性期看護の機能、役割、場 1)治療や療養の継続的な支援と連携 2)外来医療における看護 3)入退院支援	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
5	5 社会資源の活用 1)患者と家族の相互作用と関係性 2)退院支援、退院調整、多職種連携 3)セルフヘルプグループ・サポートグループ・家族会の活用と支援	準備:テキストを読む。 セルフヘルプグループ・サポートグループ・家族会の活動について調べる。	
6	4)医療費助成制度の活用	復習:授業内容を復習する。	
7	6 慢性期にある人の対処能力を高める看護事例検討:2型糖尿病(糖尿病性腎症) *発症から治療導入、透析導入まで 対象理解・アセスメント・計画立案 状況設定シミュレーション	準備:疾患、治療(食事・運動・薬物療法)、看護、行動変容、学習支援、意思決定支援、腎代替療法(透析療法、腎移植)について調べる。 復習:授業内容の復習する。	
8			
9		準備:事例検討をもとに必要な看護技術を復習する。	
10		復習:授業内容を復習する。	

11	7 慢性期にある人の病気の受け入れを促す援助 事例検討:膠原病(SLE または潰瘍性大腸炎) 対象理解・アセスメント、計画立案 状況設定シミュレーション	準備:疾患、治療(疫抑制/ステロイド療法)、経過(寛解・再燃)、看護、について調べる。 復習:授業内容の復習をする。
12		準備:事例検討をもとに必要な看護技術を復習する。 復習:授業内容を復習する。
13		
14		
15	筆記試験(1) まとめ(1)	
履修要件		
評価方法		筆記試験、レポート課題、参加状況等
テキスト		新体系看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2]呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院
参考文献		
履修上の留意事項		
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	成人看護学 老年看護学
授業科目	【領域横断科目】 慢性期看護Ⅱ	単位数(時間)	1単位(30時間) *成人0.7 老年0.3
開講年次	2年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: がんとともに生きる対象と家族の特徴を理解し、がん治療とその看護の基本的な知識を習得する。</p> <p>目標: 1 がん患者の対象の特徴と場を理解する。 2 がん患者の治療に対する看護が理解できる。 3 がん患者と家族の心理・社会的側面を理解し、全人的な看護が理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 がん医療の現状と看護 1)がん患者の対象と場	準備:「がん対策基本法」「がん対策推進基本計画」を予習する。	
2	2)がんサバイバーシップケアの概念 3)がんの予防	復習:授業の復習を行う。	
3	2 がん治療の概要	準備:「治療論」で学習した内容を復習する。 復習:治療の特徴をまとめる。 授業の復習を行う。	
4	3 がん患者の(全人的)苦痛に対するマネジメントと援助 1)身体的苦痛 2)精神的苦痛 3)心理・社会的サポート (1)がん患者とのコミュニケーション (2)セルフヘルプグループ (3)家族への支援 (4)社会的サポート(就労支援・経済的サポート)	準備:がん患者の闘病記を読み、心理面の理解を深めておく。 WHO がん疼痛ガイドラインについて調べる。 復習:授業の復習を行う。	
5	4 がん薬物療法と有害事象の援助方法 1)抗がん剤の暴露対策と血管外漏出時の対応	準備:「薬理学」抗腫瘍剤について復習する。 有害事象共通用語基準(CTCAC)について調べる。 「薬理学」「診療の補助技術」の復習をする。動画配信を視聴する。	
6	2)副作用の管理・対策	復習:授業の復習を行う。	
7	5 がん放射線療法をうける患者の看護	準備:「治療論」放射線療法を復習する。 復習:授業の復習を行う。	
8	6 集学的治療を受ける患者の看護	<p><各回> 準備:既習学習(疾患・治療・看護)をひまえ、提示する事例に関するワークシートを記入する。 準備:事後ワークシートを記入し、提出する</p>	
9	*手術、薬物、放射線療法等を組み合わせたより高い		
10	抗腫瘍		
11	1)乳がん(事例)		
12	7 大腸がん患者の看護の理解【事例展開・演習】 <学習 point>	準備:ワークシートを記入する。 既習学習を復習する。	
13	診断～術前～術後、退院支援、治療と仕事の両立	復習:「がんと共に生きる対象に対する看護師の役割」について、レポート作成	
14	意思決定支援、障害受容、スタマ管理 *事例展開を活用しシミュレーション演習を行う。		

15	試験(1) まとめ(1)	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	課題レポート30%、ワークシート 20%、筆記試験 50%	
テキスト	系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 他	
参考文献	がんがみえる メディックメディア 必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。	
履修上の 留意事項	治療論、疾病治療論、薬理学、看護と薬理と関連がある科目である。予習復習を主体的に行い講義に臨む。	
備考	がん患者の理解を深めるため、闘病記を読んでおくことを推奨する。	

科目区分	専門分野	教育内容	成人看護学 老年看護学
授業科目	【領域横断科目】 終末期看護	開講年次	3年次前期
開講年次	3年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	☑ ・ 無
<p>目的: 終末期にある対象とその家族の特徴を学び、その人らしい生と死を支える看護を理解する。</p> <p>目標: 1 終末期の概念と終末期を取り巻く現状が理解できる。 2 終末期における全人的苦痛が理解できる。 3 終末期にある対象とその家族の対応について、倫理的課題や多職種連携を心まえた支援が理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 終末期の概念と終末期を取り巻く現状 1)終末期とは 2)死を迎える経験と文化 3)終末期にある人の療養の場	準備:テキスト「緩和ケア」「臨床看護学総論」の終末期に関する章を読んでおく。	
2	4)死をめぐる倫理的課題 5)終末期におけるチーム医療	復習:授業内容を復習する。	
3	2 終末期における全人的(包括的)苦痛の看護 1)緩和ケアと看護の役割	準備:テキスト「緩和ケア」の全人的ケアの実践の章を読んでおく。「がん看護」の授業	
4	2)身体的ケアと看護 (1)終末期に生じる身体症状	の復習:がん患者の痛みの原因と発生機序を読んでおく。	
5	(2)症状メカニズムと症状マネジメント (薬剤の活用と副作用への対処も含む)	復習:授業内容を復習する。	
6	3)精神的ケアと看護 (1)終末期に生じる精神症状 (2)症状マネジメント (薬剤の活用と副作用への対処も含む)	準備:テキスト「緩和ケア」の全人的ケアの実践の章を読んでおく。 復習:授業内容を復習する。	
7	4)社会的ケア (1)社会的苦痛 (2)社会的苦痛に対する緩和ケア	準備:テキスト「緩和ケア」の全人的ケアの実践の章を読んでおく。 復習:授業内容を復習する。	
8	5)スピリチュアルケア (1)スピリチュアルペイントは (2)スピリチュアルケアの実際	準備:テキスト「緩和ケア」の全人的ケアの章を読んでおく。 復習:授業内容を復習する。	
9	6)家族への緩和ケア (1)家族が求める看護実践 (2)家族内の機能的コミュニケーションとエンリッチメントをもたらす支援	準備:テキスト「緩和ケア」の家族のケアの章を読んでおく。 復習:授業内容を復習する。	
10	3 死亡時・死亡後の看護 1)エンゼルケア【演習】 (1)目的・方法・留意点	準備:エンゼルケアに関する資料を読んでおく。 復習:演習後の課題レポート提出を提出する。	
11	2)グリーフケア (1)遺族ケアの現状 (2)遺族ケアプログラム (3)今後の課題	準備:テキスト「緩和ケア」の家族のケアの章を読んでおく。 復習:授業内容を復習する。	
12	4 終末期の対象とその家族の看護【事例】 グループワーク 1)終末期にある成人と家族への看護① *胃がん術後、再発 50歳代男性	準備:事例情報→ワークシートに記載疾患・治療について復習をする。 復習:授業後のワークシートを記入する。	

13	2)終末期にある成人と家族への看護② グループワーク *すい臓がん 多発性肝転移 60歳代女性	準備:事例情報→ワークシートに記載 疾患・治療について復習をする。 復習:授業後のワークシートを記入する。
14	3)終末期にある高齢者と家族への看護 グループワーク *心不全憎悪、誤嚥性肺炎 認知症 90歳女性	準備:事例情報→ワークシートに記載 疾患・治療について復習をする。 復習:授業後のワークシートを記入する。
15	5 医療従事者のストレスと対処法 1)終末期の対象とその家族に関わる看護師のストレス 試験(1)	準備:テキストを読む。既習学習の復習をする。 復習:レポート提出「終末期にある対象と家族への支援で看護師に役割とは」 終了試験の振り返り
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験、レポート、プレゼンテーション、授業参加度	
テキスト	系統看護学講座 緩和ケア 医学書院	
参考文献	ヌーベルヒロカワ 成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 メジカルフレンド社 経過別成人看護学 終末期看護・エンド・オブ・ライフ・ケア	
履修上の留意事項	事前学習:次回の学習内容についてテキストを精読し学習する。 事後学習:自主学習及び課題を作成する。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考	慢性期看護Ⅰ・Ⅱと関連がある科目であるため、復習をして主体的に臨むこと	

科目区分	専門科目	教育内容	老年看護学
授業科目	老年看護学援助論	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	2年次	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 加齢に伴う変化を考慮した看護を实践できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 加齢による身体的、精神的、社会的変化を踏まえた看護を理解できる。 2 認知症のある高齢者の看護が理解できる。 3 健康障害のある高齢者への看護の展開を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 老年症候群の特徴と看護 1) 熱中症	<p>準備:テキスト・配布資料を読む。</p> <p>復習:授業内容とミニテストを復習する。</p>	
2	2) 脱水 3) 発熱 4) 腰背痛		
3	5) 浮腫 6) 睡眠障害 7) 転倒・骨折		
4	8) 排尿障害 9) フレイル (1)フレイルの基準と原因 (2)サルコペニア (3)治療と予防		
5	3 認知症と社会制度 1) 認知症高齢者数の推移 2) 認知症をとりまく制度の変遷 4 認知症の看護	<p>準備:テキスト・配布資料を読む。</p> <p>復習:授業内容とミニテストを復習する。</p> <p>※授業計画「3 認知症と社会制度」「4 認知症の看護」の教授方法として、「認知症サポーター養成講座」を受講する。</p>	
6	1) 加齢による病態と要因 2) 環境と行動・心理症状 3) 認知機能の評価 4) 予防治療、療法的アプローチ 5) コミュニケーション		
7	6) 療養環境の調整 7) 急性期一般病床での援助 8) 地域で暮らすための援助 9) 家族への支援とサポートシステム		
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験、ミニテスト、レポート課題等		
テキスト	医学書院 老年看護学 医学書院 老年看護 病態・疾患論 医学書院 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		
参考文献	メディックメディア 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ 学研 看護過程に沿った対症看護(病態生理と看護のポイント)		

	その他、必要に応じて適宜紹介する。
履修上の 留意事項	科目を履修するにあたり、形態機能学、疾病治療論を十分復習して臨むこと。 レポート課題や演習は積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備考	